

《担当者名》○浅野雅子 鎌田樹寛 本家寿洋 坂上哲可 浅野葉子 朝日まどか 木村恵 児玉壮志 桜庭聡

【概要】

作業療法士が関与する病院や施設等において、臨床実習指導者による指導・監督のもと、作業療法対象者に対して作業療法評価を実施する。身体機能評価学、発達系評価学、精神機能評価学など専門科目で学んだ知識をもとに、対象者や家族、多職種からの情報収集、観察や面接、検査や測定、記録や報告等を適切に実施し、収集した情報を統合していく過程を通して対象者の全体像や問題点を把握する。

【学修目標】

1. 作業療法学生として責任ある態度、行動をとることができる。
2. 基本的な検査・測定について、評価計画を立案し臨床実習指導者の監視・指導の下、実施することができる。
3. 基本的な検査・測定の意味、リスクを理解し実施することができる。
4. 作業療法学生として必要かつ適切な記録、報告ができる。
5. 施設、リハビリテーション部門、作業療法部門の役割や概要について理解できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
	オリエンテーション	実習に向けて、心がまえや注意点などを確認する。	担当者全員
	臨地実習	本実習では、以下の3項目の習得を目的として実施される。 実習施設におけるリハビリテーションサービスの現状を理解する。 臨床実習指導者の作業療法場面の見学をする。作業療法経過や目標について情報収集する。 評価計画の作成、評価の実施	臨床実習指導者
	セミナー	学生各々が評価実習で経験したことをまとめ、発表を行う。	担当者全員

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

臨床実習指導者評価及び、セミナー発表会、サマリーシートの内容等から総合的に判断する。

【備考】

「臨床実習の手引き」を配布する。

【学修の準備】

「臨床実習の手引き」を熟読し、必要な準備を行うこと。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

- (DP1) 生命の尊厳と人権の尊重を基本とした幅広い教養、豊かな人間性、高い倫理観と優れたコミュニケーション能力を身につけている。
- (DP2) 最新のリハビリテーション科学を理解し、保健・医療・福祉をはじめとするさまざまな分野において科学的根拠を有する専門技術を提供できる能力を身につけている。
- (DP3) 作業療法士として必要な科学的知識や技術を備え、心身に障害を有する人、障害の発生が予測される人、さらにはそれらの人々が営む生活に対して、地域包括ケアの視点から適切に対処できる実践的能力を身につけている。
- (DP4) 関係職種と連携し、質の高いチーム医療の実践的能力を身につけている。
- (DP5) 国際的および地域的視野を有するリハビリテーションの専門家として活躍できる能力を身につけている。
- (DP6) 社会の変化や科学技術の進歩に対応できるよう、常に専門領域の検証と、積極的な自己研鑽および作業療法科学の開発を實踐できる能力を身につけている。